

District 2770



世界に希望を生み出そう

会長：佐久間 誠  
幹事：橋本 政行

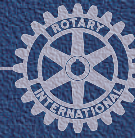
# Weekly Report

2023～2024 越谷東RC運営方針

**挑 戦** ～未来は今始まる～

2023～2024 RIテーマ

**世界に希望を生み出そう**



越谷東  
ロータリークラブ

創立1987年5月18日



〈例会日〉 毎週木曜日 12:30～13:30

〈事務局〉 〒343-0813 越谷市越ヶ谷3-7-1 (NTT東日本 越谷ビル2F)

☎ 048-965-2037 ㊚ 048-965-2011

http://www.koshigayahigashi-rc.org/ E-mail:info@koshigayahigashi-rc.org

## 第1757回例会 2023年11月09日

司会：会場運営委員会／粟屋 裕二  
会報No.1541号／担当：委員一同

会員数：60名／出席率：70.91%

### ロータリー財団月間

#### 新入会員



株式会社 伝助 代表取締役  
たぎき なおき  
田崎 尚樹 様



東日本電信電話株式会社 埼玉南支店 副支店長  
さとう たつし  
佐藤 達視 様

#### プログラム

- ◆ 黙 想
- ◆ 開会点鐘 会長 佐久間 誠
- ◆ 国歌斉唱・ロータリーソング斉唱 「我らの生業」
- ◆ クラブソング斉唱 「クラブ賛歌」(1番)
- ◆ ロータリーの目的・四つのテスト唱和 職業奉仕委員会
- ◆ 結婚・誕生祝い 親睦友愛委員会
- ◆ 会長挨拶 会長 佐久間 誠
- ◆ 幹事報告 幹事 橋本 政行
- ◆ 委員会報告 各 委員会
- ◆ 新会員入会式  
株式会社 伝助 代表取締役 田崎 尚樹 様  
たぎき なおき  
東日本電信電話株式会社 埼玉南支店 副支店長 佐藤 達視 様  
さとう たつし
- ◆ ロータリー情報  
オリエンテーション教育委員会 加藤 盛也
- ◆ 会員卓話 「GSEの思い出」 隅田 敏
- ◆ スマイル報告 社会奉仕委員会
- ◆ 出席報告 出席委員会
- ◆ 閉会点鐘 会長 佐久間 誠

#### 会長挨拶

会長 佐久間 誠



社会奉仕委員会の一大事業、市民まつりが無事成功  
におわりました事は、飯山委員長、畔上副委員長をは  
じめメンバー皆様のご協力の賜物と思われま。誠に  
有難うございました。プレパークの会様にご協力いた  
だきました木製ジャングルジムは予約が取れない程、  
大盛況でした。通年やっておりました大道芸から木製

ジャングルジムに事業を変え不安もありましたが、新しい事にチャレンジして良かったと実感いたしました。遊んでくれた子供達も思い出に残ったと思います。

また第22回越谷市高校野球大会の開会式も無事おわり重ねて御礼申し上げます。有難うございました。市民まつりと重なる事があるため、今年度から青少年奉仕委員会の事業となりましたが鈴木委員長が会田会員のサポートをしっかり受け頑張っていたいただき始球式の大暴投以外は完璧にこなせたと思います。また越谷東高校の主将が(越谷からまた甲子園に)と力強く選手宣誓され意気込みを感じました。越谷東高校の連覇が期待されます。越谷東口タリークラブも存続し、この事業がずっと続くよう心から願いました。

最後に財団寄付とポリオ寄付が10月で目標額を達成いたしました。以下の通りです。

- 財団：2.258.000円
  - ・実績 一人当(298.52\$)
  - ・目標額 一人当(200\$)
- ポリオ
  - ・実績 一人当(51.89\$)
  - ・目標額 一人当(50\$)

11/12地区大会がレイボックホールにて行われますので、参加される方は大宮駅東口タクシー乗り場近くの交番前に11時待ち合わせをお願いします。

次回例会は11/30橋本家さんにて夜間例会となります。送迎バスが出ますので委員会報告にて会場運営委員会からご案内がございませう。



## 新会員入会式



たざき なおき  
株式会社 伝助 代表取締役 田崎 尚樹 新会員



東日本電信電話株式会社 埼玉南支店 副支店長  
さとう たつし  
佐藤 達視 新会員

## 交換留学生スピーチ



2023-2024年度青少年派遣生 **バスコ Vasco GAZZOLA** 様



### 委員会報告 米山記念奨学委員会 委員長 栗田 晴巳

「ロータリー米山記念奨学会」より、特別寄付を納付された方へ記念品が届きました。米山寄付へのご理解を頂きご寄付頂いております事に、奨学会に代わりまして感謝申し上げます。



次に、対象者の方のお名前を記載させていただきます。

平野 武志 様 (19回)、清村 忠雄 様 (18回)、  
青木 伸翁 様 (10回)、大野 祐肇 様 (11回)、  
北林 隆一 様 (1回)、小暮 進勇 様 (5回)、鈴木 朝夫 様 (2回)、隅田 敏 様 (4回)。

## 米山功労者表彰



# ロータリー情報

オリエンテーション教育委員会 加藤 盛也

みなさんこんにちは。11月のロータリー情報を担当します加藤です。

それでは縦組みの4ページをご覧ください。

私が尊敬する一人の緒方貞子さんの記事が紹介されています。緒方貞子さんの曾祖父は昭和7年に起きた五・一五事件で殺害された犬養毅総理大臣です。1951年-1952年度の日本人二人目のロータリー財団奨学生としてアメリカのジョージタウン大学大学院へ留学され、東京ロータリークラブの名誉会員でもありました。残された最も有名な言葉は「忍耐と哲学をかければものごとは動いていく」です。1991年に日本人として初めて難民高等弁務官となって困難を乗り越えていく原動力であり、ロータリー財団奨学生として「超我の奉仕」というロータリーの標語に触れたことも影響しているようです。

就任直後から続いた湾岸戦争によるクルド人難民、ボスニア・ヘルツェゴビナ内戦、ルワンダ紛争により多くの難民が発生しました。クルド人難民への対応では、それまでの難民条約の難民としての定義が「他国に逃れた人々」とあり、国内避難民は対象外というハードルがありましたが、「内政不干渉の原則にとらわれて人権侵害を見逃してはなりません。国の主張が難民問題の隠れ蓑に使われてはなりません。」と訴え支援を決断され、現在の国際社会でのスタンダードになっています。ボスニア・ヘルツェゴビナ内戦では、停戦合意のない中での援助活動を執行し、自身も危険を顧みず現地入りしました。ルワンダ紛争によるアフリカ各地の難民キャンプ内で生まれた女の子の中には、サダコ・オガタと名付けられた子供が多数いるそうです。2019年10月22日に亡くなりましたが、その後に勃発したウクライナ戦争、パレスチナ紛争で多くの難民が発生している現状に天国で心を痛めているのではないのでしょうか。

参考までにRLIが今回のパレスチナ紛争に対してどのようなコメントを発信しているかを確認してみました。



「国際ロータリーは、イスラエルとガザ地区のパレスチナ人との長い紛争の歴史における長引く苦難を認識し、すべて当事者に対し、平和への道を模索することを強く求めます。

それと同時に私たちは、ハマスによるイスラエル市民への恐ろしい攻撃を明白に非難し、負傷した人、殺害された人、誘拐された人の数に愕然としています。

イスラエルとハマスの紛争が激しくなる中、私たちはさらなる激化の可能性、および人命の喪失やガザ地区において既に起きている人道的危機を深く懸念しています。私たちは、罪のない市民への暴力を非難し、国際人権法の遵守をサポートします。

平和の構築は、ロータリーの使命の礎であるとともに、ロータリーの重点分野の一つでもあります。根本的に、ロータリーはさまざまな国籍、宗教、文化、歴史を持つ人びとが集うための共通の土台であり、よりよい未来という共通の信念で人びとを結びつけています。この結びつきこそが、紛争時にも私たちを人間らしくし、持続的な平和の土台を築くものです。

ロータリーは、会員、パートナー、地域社会と協力し、この地域とほかの地域における平和と発展を支える長期的で持続可能なソリューションを見つけることに引き続きコミットしています。」

RLIが声を上げることは勿論大事ですが、今回の記事を寄稿された中村さんが所属する国連UNHCR協会に寄付金を送るなど、命の危機にさらされている市民救済のために具体的に何を行うのかを示していただき、私たちも協力していかなくてはならないと考えます。



1. はじめに、研修プログラム日程表と訪問先マップをご覧になっていただければお分かりのとおり、私たちは、アメリカはワシントン州、アイダホ州、カナダはブリティッシュコロンビア州の比較的カントリーサイドの13の市を5週間かけて訪れて参りました。

私は、5080地区の各ロータリークラブの皆様のご配慮により、スポーケン、コードアレン、インバーミア、ゴールデンではホストが弁護士をしている家庭に滞在することが出来ました。また、スポーケン、リッチランド、ワラワラ、クランブルーク、ゴールデン、グランドフォークスでは裁判の傍聴や裁判所内部の見学、裁判官、検察官、弁護士ら大勢の法曹と面談することが出来ました。

紙面の都合上、極めて簡単ではありますが、以下これらの研修の報告を数します。



【アイダホ】ロー・スクールのロバート・オコーネル教授と。

2. スポーケンでは、ホストファミリーのマクマーレン夫妻が二人とも弁護士をしておりましたので、自宅から自動車ですら5～6分の場所にある二人の事務所を見学させていただきました。

アメリカは連邦制度をとっているため、裁判所も連邦裁判所と1州裁判所に大きく分かれており、それに対応して弁護士資格も各州ごとになっているとのことでした。つまり登録をすれば他の州に事務所を開くことは出来るけれども、法廷活動をするにはその州の試験を受けないといけないとのことでした。

マクマーレン夫妻は、もっぱら特定の会社のための法務を専門としているので裁判所に行くことは少ないとのことでした。そこで、スポーケンではマクマーレン夫妻の紹介でコニーという女性弁護士の手引きにより、連邦裁判所（連邦裁判所）を見学することが出来ました。

連邦裁判所では、破産手続のための法廷や裁判官室・書記官室等の見学と破産部の裁判官との面談することが出来ました。

世相を反映して破産部（破産係）という日本では特に忙しい部署で、その中でも東京地裁に行くとき書記官の方々の机の上にはこれほどよく仕事ができるなあと思うほど書類が堆く積まれています。案内して下さった方はこちらでも破産部は特に忙しいとおっしゃっていましたが、関係書類はどこにあるんだろうと言うほどきれいな状態なのが印象的でした。裁判官の説明を聞いてその理由が分かったのですが、こちらでは、ポイントごとに法廷での審理を行うけれども、細かいやり取りなどは代理人の弁護士とコンピュータ上で処理してしまい、また提出された書面なども専門のスタッフがスキャナーで読み取り、裁判官が必要な時に自分のコンピュータ上に呼び出すことが出来るようになっていました。このシステム（アプリケーションソフト）は連邦裁判所で開発されたとのことでしたが、これには手続上の問題点や破産者及びその代理人に質問すべき事項などがマニュアル化されて組み込まれており、相当な労力と時間を節約することが出来ることに感心しました。このようなシステムが整っているために日本の裁判所と異なり書類の山に囲まれていることがなかったのです。日本でも徐々にコンピュータが導入されて、コンピュータ台数では引けを取らない程になっていますが、ここまでコンピュータを駆

使したシステムが整うまでにはまだこれから何年もかかるのではないかと思います。

また州裁判所では、少年事件の裁判の傍聴と裁判官や調査官らとの面談をすることが出来ました。

日本では少年事件は非公開なのですが、こちらでは少年事件についても公開制度が採られており、自由に傍聴する事が出来ました。

また、日本では少年事件の審理には検察官はタッチしないのですが、こちらでは通常の裁判と同じく検察官が審理にかかわっていました。

少年事件は、日本と同様アメリカでも深刻化しているとのことでした。

上記の二つの点は日本でも大きな論点になっているところで、弁護士の間でもよく議論になっているのですが、アメリカの制度についてはこちらに来るまで知りませんでした。



インバーミアでのホストファミリー。

3. リッチランドでは、刑事裁判の傍聴をすることが出来ました。ご存知のとおり、こちらでは陪審制を採っているのですが、事実認定に関しては陪審員に選ばれた12人の市民がカギを握っています。12人全員の意見が一致しないと結誦(評決)が出せないため、手続上の無駄が生じることは否めませんが、アメリカの人達は民主主義には手続上の「無駄」も必要なことをよく知っていて、逆に日本に陪審制がないことを知ると驚く人がほとんどでした。

4. アイダホ・ロー・スクールでは、ロバート・オコーネル教授から交渉術の講義を受けること



ワラワラの裁判所、裁判官室にて。

ができました。

ロー・スクールは大学を卒業後の学生が弁護士になるために3年間勉強するところですが、中には一度職業経験をされてからロー・スクールで学ぶ方も多く、アイダホ・ロー・スクールにも私よりも年上の方が大勢いらっしゃいました。

講義の形式は教授が一方向的にレクチャーする日本のものとは異なり、教授から学生に随時質問が投げかけられるために全員が常に教授の一言一句に集中していたのが印象的でした。

5. 最後に、この研修中お互いに相手を励ます言葉を交わし合い、ユーモアを共有した時間を過ぎて、そして時が経ち別れを告げてまた次なる地へと移動していくことの連続でした。

たった2～4日の滞在でしかないのに移動のためお別れする時には本当に辛い思いをしました。

そこではまた新たな出会いが待っているのですが、出会いがあれば別れがあるのが人生なんだなあつくづく感じました。私たちは、研修がほぼ終わろうとする6 / 8に米加GSEチームメンバーのシェリルが勤務しているコルベリーの高校を訪れました。シェリルはこの高校で日本語の先生をしているのですが、その教室に「一期一会」と日本語で書かれた額縁があり、その言葉の重みを実感しているところでしたので、それを見たときには感慨深いものがありました。

私のGSEプログラムの感想を一言で述べられ

## 会員卓話

ば、Thank you for everything ! に尽きます。

紙面の都合上、具体的なレポートは職業研修の一部のみしか出来ませんでした。私たちはこの研修中にホストファミリーの方々から手厚いもてなしを受けたのをはじめとして、各クラブのロータリアンの方々や訪問先の方々に本当にお世話になりました。

お世話になった方に“Thank you!”と感謝の言葉を伝えると、“My pleasure !”と返ってくるのです。私はこの5週間の研修で出会った方々から“奉仕”することの意味を体験させていただきました。

短い滞在期間でしたが、生活を共にした12のホストファミリーにはそれぞれの幸せな家庭

生活の営みがあり、それを目にすることの出来たことは一生涯の宝物となりました。

今は本当にすべてに感謝しています。出発前には忙しすぎて、感謝して仕事をしていなかったように思いますが、これからは奉仕の精神で一つ一つを喜んでやりたいと思います。

最後になりましたが、私たちにこのような充実した素晴らしいGSE研修を与えてくださった、越谷東ロータリークラブ、2770地区及びホストファミリーをはじめ5080地区のロータリアンの方々にこの紙面をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

おめでとうございます

誕生祝い

11月

結婚祝い



左から  
川上 邦雄、岡崎 愛子、大野 祐肇、鈴木ニ之将



左から 青木 伸翁、小林 充、山崎 勝己

スマイル報告

社会奉仕委員会

今 回

30,000円

累 計

374,000円

出席報告

出席委員会

次回例会のご案内

第1759回 11月30日(木)

夜間例会(移動例会/橋本家)

高校野球大会反省会

次年度理事・役員の発表